

休眠預金を活用した事業がはじまります！

休眠預金を梃にオールジャパンの連携を

2019年6月21日

一般財団法人日本民間公益活動連携機構

事務局次長 鈴木均



JANPIA

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

一般財団法人日本民間公益活動連携機構

(Japan Network for Public Interest Activities : JANPIA)

休眠預金等活用法における「指定活用団体」

ビジョン (私たちが目指す方向性・長期目標)

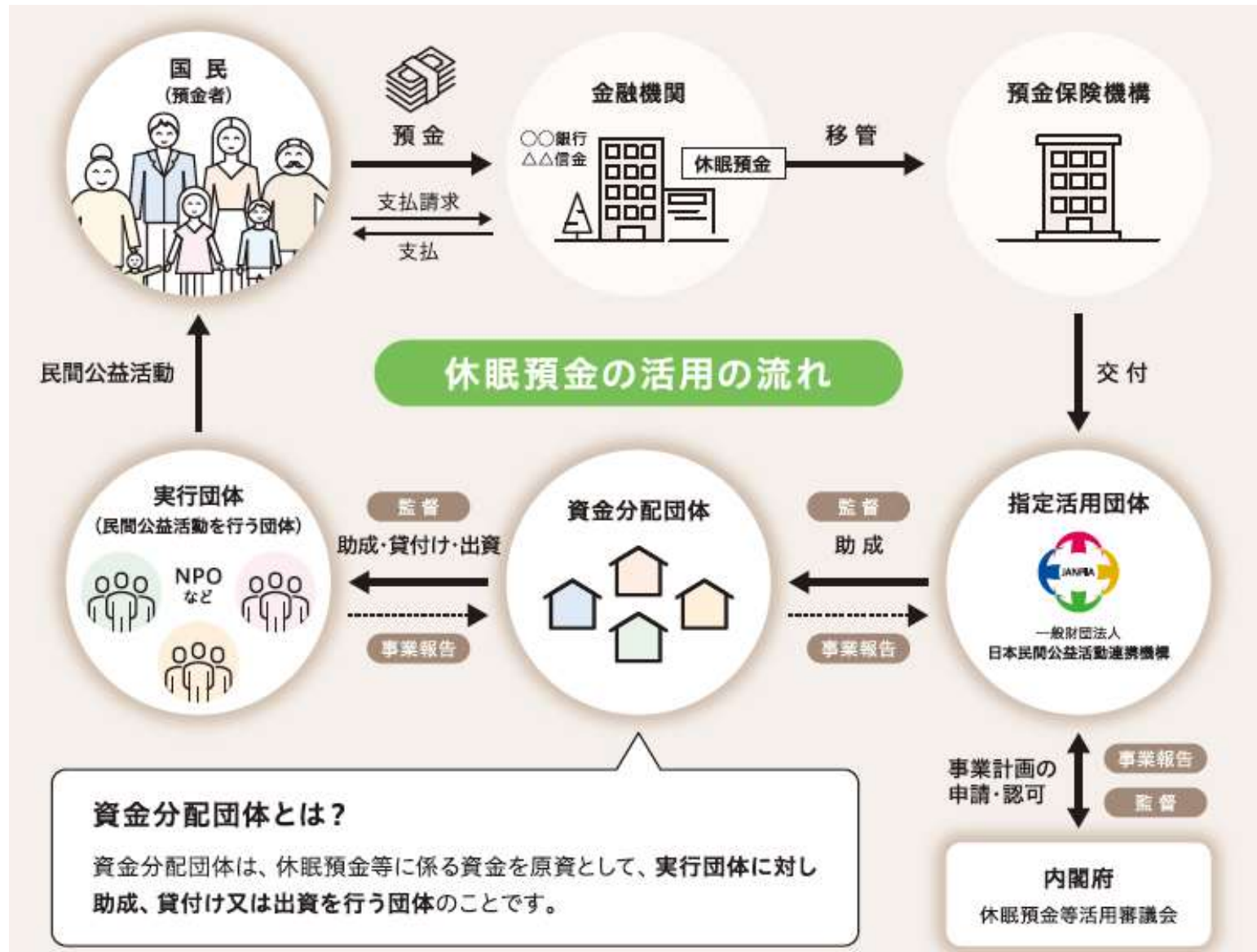
誰ひとり取り残さない持続可能な社会作りへの触媒に。



ミッション

- (1) 社会の優先課題を提示
- (2) 資金支援
- (3) インキュベーター・アクセラレーター
- (4) 伴走型支援
- (5) 革新的手法の普及促進
- (6) 監督
- (7) 活動の広報、制度への参画の促進
- (8) 民間公益活動全体の把握
- (9) 事例の分析と活動への反映
- (10) 民間公益活動の担い手の自立化のための環境整備

休眠預金等活用の流れ



活用の目的

- 1) 国、地方公共団体が対応困難な社会の諸課題の解決を図る
- 2) **民間公益活動の担い手の育成と民間公益活動に係る資金調達の環境を整備**

目的達成で期待される効果

- ・ 社会の諸課題の解決のための
自律的かつ持続的な仕組みが構築
- ・ 民間公益活動を行う団体の
資金的自立性と事業の持続可能性を確保



- ・ **社会課題解決能力の飛躍的な向上**
- ・ **SDGsの達成にも貢献**

財源（休眠預金）の特性（国民の資産）から重視すること

- ・ 国民、ステークホルダー（多様な関係者）への**事業の透明性や説明責任**
- ・ 事業成果の可視化⇒社会インパクト評価の実施
- ・ 民間公益活動を担う**組織の能力強化を目的とした伴走支援**

● 基本方針

- ・ 実行能力の高い資金分配団体の選定→社会課題解決の具体的事例の創出を最優先
- ・ 制度運用の基礎的な仕組みを構築（資金分配団体、実行団体の基盤強化に係る支援など）

● 2019年度採択事業は最長3年間

社会の諸課題（対象となる3領域）

- ①子ども及び若者の支援に係る活動
- ②日常生活または社会生活を営む上での困難を有する者の支援に関する活動
- ③地域社会における活力の低下、その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に関する活動

社会の諸課題を
解決するための手法として

4種類の助成事業

- (1) 草の根活動支援事業（10億円）
- (2) 新規企画支援事業（5億円）
- (3) ソーシャルビジネス
形成支援事業（3億円）
- (4) 災害支援事業（3億円）

基盤強化支援事業

民間公益活動を持続的に支える環境整備を促進



- 資金分配団体、実行団体との緊密な連携による制度の実効性確保
- 資金分配団体・実行団体の基盤強化のための連携支援：
 - ・ 対等なパートナーシップによる企画補強から進捗管理、監督、評価までの支援
 - ・ 資金分配団体の**プログラム・オフィサー**確保と育成支援
 - ・ リソースマッチング支援
 - 企業等の専門家によるプロボノ活動・ボランティアの活用による経営、広報、マーケティング、ICT活用等を支援
 - 他の資金源の獲得支援（企業の資金支援、クラウドファンディング等）
 - ・ 教育・研修事業の順次実施（社会インパクト評価、グラントメイキング等）
 - ・ **社会インパクト評価の必須化**



ご清聴ありがとうございました。



JANPIA

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構